

教職への道

～知識を深め、意欲を高める～

明星大学教育学部教育学科 特任教授 小宮満彦

はじめに

平成24年8月28日、中央教育審議会は「教職生活全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」を答申した。答申の構成は以下のとおりである。

I 現状と課題

- 1 これからの社会と学校に期待される役割
- 2 これからの教員に求められる資質能力
- 3 取り組むべき課題

II 改革の方向性

- 1 教員養成の改革の方向性
- 2 教員免許制度の改革の方向性

III 当面の改善方策～教育委員会・学校と大学の連携・協働による高度化～以下略

ここでは「I 現状と課題」の「2 これからの教員に求められる資質能力」に着目した。本学教育学部における教職課程科目の授業を通して、上記課題にせまるために、どのような指導を展開したのか担当した授業をもとに実践報告する。

1 「教職入門」での実践

この科目は、卒業後に教職をめざす1年生が受講する本学教職課程における最初の必修科目である。例年100名前後の学生を5年間担当している。入学間もない時期でのスタートとなるため、第1回の授業がガイダンスが重要な意味をもってくる。

ガイダンスでは、はじめに本授業のめざすもの(ねらい)4点について解説した。

- (1) 学校教育における教師の役割と機能について理解する。
- (2) 教育現場(学校)の現状を知り、求められる教師像を具現化できるようにする。
- (3) 自身の教育観、教師観を確立する。
- (4) 求められる教師となるために必要な資質・能力とは何かについて学ぶ。

次に本授業の毎時間ごとの「具体的な課題(テーマ)」をについて解説し、15回の授業全体の見通しを持たせ授業に主体的に取り組むことの重要性を強調した。

(どのように学ぶか等学び方(方向性)を明確にさせることが必要)

1時間目のガイダンスでは、将来教職に就くという目標を前提に、教職への熱い思いを持たせることで学習をスタートさせることが不可欠である。

授業に関しては学生一人ひとりが「考える」「議論する」「調べる」「まとめる」「作成」するなど、毎時間ごとに、主体的に取り組めるアクティブラーニングの視点にたった授業を実践した。平成29年度に実施した授業(実践)をいくつか紹介したい。

第4回「学校をとりまく今日的な教育課題II」

前時に行ったアンケートの結果をもとに「今日的な教育課題」について、14のグループごとに2つの教育課題について協議した。終了後に各グループの協議内容について代表者が発表を行い課題を共有化した。

◎グループ協議(例)

- | | |
|-------------|----------------------|
| 1班 英語教育・いじめ | 2班 子どもの貧困・モンスターペアレント |
| 3班 いじめ・学力問題 | 4班 学力低下・スマホ依存 ～中略～ |
| 13班 不登校・いじめ | 14班 スマホ・いじめ・ICT教育 |

◎協議の柱

- (1) 背景や原因として考えられること
- (2) こうした課題の実態はどうだろうか
- (3) こうした課題を改善していくためには(教師としての視点で)

入学間もない1年生にとっては、「いじめ」や「不登校」などの教育課題について、じっくり考えたり、仲間と協議したりする機会はほとんどなかったと思われる。

一人ひとりが自分の考えを持ち、仲間の考えや意見を聞き、協議することを繰り返して行っていくことで、学生の意識の高まりや変化が、授業での発言や態度等に顕著に見られるようになってきた。

1年生の段階から本授業を通して、教育時事や社会の動きに対して、常にアンテナを高くして、自身の考えをしっかりと発信できるような基盤づくりが、徐々にではあるができつつある。これから卒業までの間、こうした実践を積み重ねていくことで、将来、一人の社会人(教師)として必要なスキルも自然と身につけていくものと考えている。

第11回 教師力I 学級経営を考える

本授業は、教師に求められる資質、能力のひとつである「専門職としての高度な知識・技能」における「教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践できる力」に関わってくる。

前時に「学校における教育活動と学級担任の役割1」について学習した。

この授業では教育基本法第1条(教育の目的)、第2条(教育の目標)や学校教育法、地方公務員法、教育公務員特例法等教育に関わる重要な法規の概要に続いて学校教育目標について、教育課程の編成、学級担任の役割等について学習した。

ここでも学生には「事前に出された課題等に確実に取り組むことで、授業の理解が深まる」と事前・事後学習の大切さや必要性を説いた。

※ここでの課題は「母校の小・中学校の教育目標や学級目標を調べる」

授業では、前時の学習をふまえて「学級経営を考える」というテーマで行った。授業の最後に、次週までの課題を出した。

- (1) どのような学級を創りたいか。(希望する校種)
- (2) 4月の「学級開き」で、話したいことはどのようなことですか。

児童・生徒を前に話す場面を想定して内容をまとめてください。

想定(小・中・高____)年生、担任の話は3分程度

次の授業で実際に何名かの学生が新任教師(想定)となって発表した。

発表した学生からは、「時と場合に応じた話(講話)の難しさや大切さを実感でき良かった」「児童・生徒の実態に応じて、教師が学級で話をする事のむずかしさを実感できた」等との感想を聞くことができた。

発表できなかった学生からも「こうした機会があれば発表をしてみたい」など意欲的な感想や意見を多数を聞くことができ、授業者としても学生の意識の変容を実感できた。

こうした授業での取り組みを通して、1年生の早い段階から「教職」に対する理解を深め、資質や能力を高めていく、スモールステップの積み重ねの必要性を改めて強く感じた。

2 「中等教育相談の基礎と方法」での実践

中学校・高等学校の教員免許取得をめざし(卒業後には教員をめざす学生が)履修をしている教職課程3年次の選択科目である。前期と後期を合わせて、例年、150名前後の学生を担当している。本授業の目標5点について1回目の授業ガイダンスの中で学生に周知した。さらに、1回目の授業では、本授業に関わる内容とともに、一人ひとりの「めざす教師像」や希望する校種等についての調査を行っている。その結果3年生になり1年後に迫った進路について、より現実的なものになってきた。

具体的には、多くの学生が入学当初に抱いていた中学校や高校の教員希望から、小学校の教員希望へ変わってきたことである。何人かの学生に聞き取りを行った。学生たちは、「採用数のちがい」「専門教科指導への不安」等をその理由としてあげていた。このことに関しては、今後の課題の一つとしていきたい。

《本授業の目標》

- (1) 学校における教育相談の種類、内容、課題等を理解する。
- (2) 中学生や高校生の心理と適切な対応や支援のあり方について学ぶ。
- (3) 中学生や高校生の問題行動とその背景を理解し、適切な対応について学ぶ。
- (4) カウンセリングの理論と技法の基本を学び、実習やボランティアで活用できるようにする。
- (5) 学校内外における関係機関等との連携・協力(協働)について学ぶ。

こうした授業目標を達成するために、中学校や高等学校現場の「教育相談」や「生徒指導」に関わる実際の資料や事例等を積極的に取り入れた授業を実践した。

さらに、まとめの授業では、教育委員会等で教育相談、生徒指導等の業務を担当する指導主事をゲストティーチャーとして招き、児童・生徒の実態や学校をとりまく諸課題等について講義をいただいた。

授業では、3年生という時期を考慮して、教師としての視点に立った発言や発表、協議ができるようにと意識化をはかった。具体的な取り組みの一つとして、授業の冒頭に、自己表現活動として「1分間程度スピーチ」を順番に行った。

発表のテーマについては、「最近気になる出来事」「私の薦めるこの一冊」など身近な話題をとりあげた。回数を重ねるにつれ発表内容やプレゼンテーションが向上していく様子が実感できた。こうした取り組みを継続的に実践することが、一人ひとりのコミュニケーション能力の向上に繋がってくると考える。

つぎに授業(実践)を紹介したい。

第3回 学級経営や授業に活かす教育相談～アンケートの実際～

本授業は、教師に求められる資質、能力の「教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践できる力」に関わってくる。ここでは、前時の「教育相談のめざすもの、生徒指導との関係」について学習したことを生かして行った。

《本授業のテーマ》

「中学校1年の学級担任として、5月に実施される「定期教育相談」に向けて、アンケートの内容を考える」

《授業の流れ》

- ① 各自で自身の体験や生徒理解の視点から10項目のアンケートを考える
- ② 4～6人のグループを編成し、一人ひとりが考えたアンケートの発表

→協議→グループとして一つのアンケートを作成する。

③11のグループからの発表(次のような流れで発表を行った)

アンケートの概要 ⇒ 代表的なアンケートの提案 ⇒ 学級経営にどのように活かすか ⇒
作成してみたの感想(苦労したこと等)

授業を通して、今まではアンケートに回答する立場であったが、今回の演習では、生徒一人ひとりの思いや願いを確実に受けとめることができるアンケートを発信する立場＝「教師」として考えることとした。グループ協議では、すべての学生が真剣に考え、参加し建設的な意見を述べていたことが印象的であった。

11グループの発表に対しては、その都度、感想(プラスのストロークで)やアドバイスをを行った。各グループからは課題を的確にとらえた内容の発表が行われた。

【参考】 学生がグループで作成したアンケート(資料1)

次の授業では「教育相談とアンケートの有効活用」という視点から、実際に中学校で使われている「教育相談アンケート」を使って授業を行った。学生は自分たちで作成したアンケートと比較検討をすることで、その重要さや必要性に気づくことができたようである。

本授業でのこうした取り組みは、授業ふりかえりの感想や意見からも、教職をめざしている3年生にとって、学校現場で実際に行われている「生徒指導」や「教育相談」など実践的な学びを深めるよい機会となっていることが分かる。

次に学校内及び学校外との連携についての授業実践

第12回 校内での連携・関係機関等との連携について

今、子どもたちが抱えるさまざまな課題(いじめ、不登校、学力、こどもの貧困等)が複雑化、深刻化している。こうした状況を改善あるいは解決していくために、学校では「チームとしての支援」や「校内外における連携」の重要性が強調されている。ここでは校内での連携を「事例」をもとに、関係機関との連携を「専門家との連携」について取り組んだ授業を紹介する。

はじめに校内での連携についてである。

学校(教員)がチームとして教育活動を推進することの重要さは従来から指摘されてきた。平成29年3月31日に告示された学習指導要領の実施に向け、改めてこのことが以下に示すような内容で示された。

教員が多様な専門性を持つ人材等と連携・分担してチームとして職務を担うことにより、学校の教育力・組織力を向上させることが必要であり、その中心的役割を担う教員一人一人がスキルアップを図り、その役割に応じて活躍できるようにすることとそのための環境整備を図ることが重要である。

授業では、上記の内容について確認することからはじめた。

多くの学生が小・中学校などでボランティア等として活動している現状からも上記の内容については認識していた。

はじめに学校内での連携をいかに進めるかについて二つの事例から取り組んだ。

《事例1》 小学校1年生男子(はじめて入学)を持つ母親や子どもの言動と学級担任の対応について

《事例2》 中学校1年生の部活動(不本意入部)に関わる生徒、保護者、顧問、に関わる学級担任の対応について

上記二つは「小一プロブレム」や「中一ギャップ」にも関わる、代表的な事例である。授業ではそれぞ

れの事例に関して、はじめに学級担任の対応の何が課題で、どうすべきであったのか等について、じっくり考えさせた。それを文章にまとめることで、他者との意見や考え方の違いを比較することができ、充実したグループ協議となった。

この取り組みを通して、小学校・中学校の学級担任に求められる資質や能力について再確認できる授業となった。

【参考】 事例Ⅰ(小学1年生)、事例Ⅱ(中学1年生)

次に関係機関等との連携についてである。

はじめに学生への聞き取りから、自身の中学生や高校生の時には、ほとんどの学校には、相談室や教育相談室が設置されていることが確認できた。設置されているその部屋には、「スクールカウンセラー」や「教育相談員」などが、週に何日か在籍していたことも確認できた。そこで本授業では、学生たちに関わりあったスクールカウンセラーに焦点をあて、文部科学省の「スクールカウンセラー等活用事業」を取り上げた。

学生は自分に関わりのある自治体や教育実習校のある自治体など2か所を選択した。レポートは「活用事業の実態や実践例等からまとめる」、「それぞれ考察する」ことを必須とした。提出されたレポートの考察から、「スクールカウンセラーの役割や業務について理解が深まった」「連携の実態や重要性がわかった」など、一人ひとりの貴重な考えにふれることができた。

まとめ

教職センター年報(創刊号)の実践報告として、私が担当する授業から、いくつかの取り組みをとりあげた。ご一読いただき、日頃の授業での指導の一端をご理解いただければ幸いです。

最後に平成27年12月21日付で出された三答申のひとつ「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」の教員養成に関する課題を確認しておきたい。

- ◆養成段階は「教員となる際に必要な最低限の基礎的・基盤的な学修」を行う段階であることを認識する必要がある。
- ◆実践的指導力の育成に資するとともに、教職課程の学生に自らの教員としての適性を考えさせる機会として、学校現場や教職を体験させる機会を充実させることが必要である。
- ◆教職課程の質保証・向上のため、教職課程に関する外部評価制度の導入や全学的に教職課程を統括する組織の整備を促進する必要がある。
- ◆教員養成カリキュラムについて、学校現場の要望に柔軟に対応できるよう、教職課程の大きくくり化や大学の独自性が発揮されやすい制度とするための検討が必要である。

本学教育学科ならび教職センターの関わる教職員の一人として、上記の教員養成に関わる課題に正対し、本学教職課程の先進的な事業の取り組み、実践的な授業の一層の充実を図っていくことが使命であると考えます。

資料1

第2回 中等教育相談の基礎と方法

協議課題 教育相談（定期）で活用するアンケートを考える

(3) 班 : 司会 _____ 記録 _____
メンバー : _____

このアンケートは先生しか見ないので安心して書いて下さい。

① 朝ごはんは毎日食べていますか。

1. よくあてはまる 2. あてはまる 3. あまりあてはまらない 4. あてはまらない。

6. 自分の考えや気持ちを伝えるのは得意なほうだと思いますか。

(4秋)

2. 学校は楽しいと思いますか。

1. よくあてはまる 2. あてはまる 3. あまりあてはまらない 4. あてはまらない。

7. よく話の友だちは誰ですか。

3. 最近夢中になっていることや趣味はありますか。

1. ある。() 2. ない。

()

4. これからの学校生活に期待していますか。

1. はい() 2. いいえ

10. 担任または同僚の先生に伝えたい事を書いて下さい。ない人は自己紹介を書いて下さい。待っています!!

()

5. 身近な人にその日あった出来事を話せますか。

1. よくあてはまる 2. あてはまる 3. あまりあてはまらない 4. あてはまらない。

⑧ 学校またはクラスであなたがいじめと感じる行動を受けたり見たことはありますか。

1. はい 2. いいえ

⑨ 8ではいと答えた人に聞きます。どのようなものでしたか。できるだけ具体的に教えてください。

()

第2回 中等教育相談の基礎と方法

協議課題 教育相談（定期）で活用するアンケートを考える

10 班 : 司会 _____ 記録 _____
メンバー : _____

- | | | | | | |
|------------------------------|-------------------------------|-------|------|------|------|
| ○ 学校は楽しいか x5 | 1. 学校は楽しいか | よくはない | まあいい | 全然いい | 全然ない |
| ○ 勉強はついていけないか x4 | 2. 勉強はついていけないか | | | | |
| ・新しい友達はできたか | | | | | |
| ・クラスになじんでいるか x2 | 3. 学校の内外でいじめを受けているか、または受けているか | はい | いいえ | | |
| ・授業の進度は適切か | ↳ その人を知っているか | | | | |
| ○ 学校の内外でいじめを受けているか、または知っているか | 4. 悩みごとを相談できる人はいるか | いる | いない | | |
| ↳ その人を知っているか | 5. 好きな教科は何か () | | | | |
| ○ 相談できる人はいるか x2 | 理由 () | | | | |
| ・家族とは仲良くできているか | 6. 嫌いな教科は何か () | | | | |
| ・身の周りに嫌だと感じる人はいるか | 理由 () | | | | |
| ○ (・好きな教科 x3 → { どのくらい好きなのか | 7. 学校生活で悩みはあるか | はい | いいえ | | |
| ・嫌いな教科 x2 → { | 8. 家庭での悩みはあるか | はい | いいえ | | |
| ・家での勉強時間 x2 | 9. 将来の夢は何か () | | | | |
| ○ 学校生活で悩みはあるか x3 | (複数回答可) | | | | |
| ・↳ どのくらいですか? x2 | 10. 将来について悩みはあるか | はい | いいえ | | |
| ○ 家庭での悩みはあるか x2 | ↳ () | | | | |
| ・↳ どのくらいですか? | | | | | |
| ○ 将来の夢などについて x2 | | | | | |
| ・保護者とよく話せるか | | | | | |
| ・信頼できる先生はいるか | ハマっていること 興味のあること | | | | |
| ・学校生活で楽しいことは? | | | | | |
| ・周りに困っている人はいるか | クラスについて 良い点や改善点 | | | | |
| ・意見と発表の場はあるか | | | | | |
| ・この学校に生徒が相談できる場があると思いか | | | | | |
| ・朝ごはんの頻度 | | | | | |
| ・何時頃寝ているか | | | | | |

第2回 中等教育相談の基礎と方法

協議課題 教育相談（定期）で活用するアンケートを考える

(9) 班 : 司会 _____ 記録 _____
メンバー : _____

〈生活習慣〉

- ① 毎日 何時間寝ていますか (約 時間)
- ② 自分は健康的な生活をしていると思いますか
(はい、何とも言えない、いいえ)

項目: 学校生活 ✓
勉強 ✓
友人関係 ✓
学校行事 ✓
自由記述
生活習慣 ✓

〈学校生活〉

- ③ 中学校には慣れましたか。 (はい、何とも言えない、いいえ)
- ④ 何とも言えない、いいえと答えた人 (その理由を教えてください)。(自由記述)

〈学校行事〉

- ⑤ 楽しい学校行事に ○ を付けてください。
(体育祭、文化祭)

〈勉強〉

- ⑥ 中学の勉強は難しいと感じますか
(難しい、やや難しい、何とも言えない、やや簡単、簡単)
- ⑦ 中学校の勉強に余裕はありますか (はい、どちらとも言えない、いいえ)

〈人間関係〉

- ⑧ 今悩んでいることはありますか (はい、何とも言えない、いいえ)
- ⑨ どのような事で悩んでいますか、ふくれれば詳しく教えてください。(自由記述)
()
- ⑩ ⑧、⑨の二つを相談できる人はいますか、またどのような人ですか
(はい、いいえ あつたとの関係:)

事例Ⅰ M先生は、今年度の4月から2年生の学級担任になりました。一学期も半ばを過ぎた6月になると、担任するA男の母親から3日連続して電話がありました。

電話の内容は、A男が持ち帰った漢字の練習ノートを見て驚いたとのこと。母親はうちの子「字が汚いんです」「ノートぐちゃぐちゃなんです」「本当にこまってしまう」と訴えてきました。つい先日も「子どもが国語の教科書をなくしてしまったようです」と電話連絡があったばかりです。M先生は、A男の母親の心配性のところが気になっていたもので、「大丈夫ですよ。2年生ぐらいの子どもは、みんなそうですよ」と話して電話は終わりました。しかし、どうしても今回のことが気になったA男の母親は、1年生の担任であったN先生に電話をしました。母親からの話を聞いたN先生は、1年生の時から気になっていたことだったので、すぐにM先生に母親からの電話の内容を報告しました。

《学生個々が考える視点》

- (1) M先生の保護者（A男の母親）との対応での課題はどのような点ですか。
- (2) A男の母親から電話を受けた後、M先生はどういった対応をとるべきでしたか。
- (3) 改めてA男の漢字練習ノートを見ると、「へん」と「つくり」を逆に書いたり、字がマスからはみ出して書いたりしていました。A男にはどのような指導が必要でしょうか。
- (4) 今回のことで、M先生は学級担任として、どのような点が足りなかったのでしょうか。

《グループ協議》 個別 ⇒ グループ(4~6名)協議 ⇒ 発表(全グループ) ⇒ 講評
例 1班の協議メモ

《事例Ⅰ》

◎保護者への支援

保護者の立場に立って考える。子どもへの支援内容を伝える。

気持ちを受け入れる。「対応を考えるの2」。家庭の様子を見下す。保護者に持ち物確認を一緒に、行ってもらう。

学校の良い点、褒める点を伝えるべき。

解決策と一緒に考えていく。

信頼関係を築く

- ・NGワード「みんなそうですよ。」
- ・家庭と一緒に宿題しもらうよう
- ・学校での直近の状況を伝える。
- 最終的に、学習障害であることを認める

大きいマスで、なぞり練習(特別課題を出す)マスに入れることから。

個別支援。

◎子どもへの支援

- 宿題へのコメント、訂正してあげる。
- 着段から持ち物確認を学級で行う。
- 先生がノートにお手本を置いてあげる。
- 宿題をどのように行っているのかが知る、気にはることは直接指導。
- 丁寧に直す、根気強く、支援し続ける。

事例Ⅱ 中学校1年生のB男は、小学生の時はサッカークラブで活躍していました。中学校でもサッカーを続けたいと考えていました。しかし、仲の良い友達みんな野球部に入り、サッカー部にはだれも入部しませんでした。そこでB男もしぶしぶ野球部に入りました。入部後、徐々に練習がきつくなるにしたがって、B男は練習についていけなくなりました。授業中に保健室に行くことが多くなり、養護教諭には「部活が辛いのでやめたい」などと少しずつ自分の気持ち（本心）を話すようになりました。話の中には、ユニホームや用具を購入したばかりなので、退部の話は、両親には言いだすににくいとも話しました。……

《学生個々が考える視点》

- (1) あなたはB男の学級担任です。最良の解決方法を探したいと思います。この後のB男への指導や保護者への支援についてまとめてください。
- (2) 学校では「チーム」として、どのような支援が考えられますか。

《グループ協議》 個別 ⇒ グループ(4~6名)協議 ⇒ 発表(全グループ) ⇒ 講評
例 12班の協議メモ

《事例Ⅱ》

◎保護者への支援

- 保護者にも同じ説明をする。
- 子どもが保護者に話さず伝えもし話さずらいようなら教師も一緒に話しに行く。
- 「部活を頑張っている」という気持ちに尊重する。その上でB男の今の状況を伝え、B男に提案したことを保護者にも提案する。

◎子どもへの支援

- 継続させることだけが良いことではなく、別の価値を見い出させる。(例えば、「幸運に流されて自分の意見を持たないことは良くないから、「ことを学べた」「上達」)
- 辛いならやめてもいいと思わせ、サッカー部に入りたいならそれもいいと思わせることを伝える。
- 1か月間の休部を提案する。その1か月間は勉強にしっかりと集中することを目標にさせる。

◎チーム支援

- 顧問が、その場に合った練習方法を考えあげたり、その子の悩みを寄り添えるようなチームづくりをするべき。
- 仲の良い友達を個別に呼び出し、気がすくならないよう